

## 11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項

### [ 1 ] 基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項

#### ( 1 ) 各種事業の効果的・効率的な推進について

##### 1) タウンマネジメントの取り組み

小倉都心地区は、平成 17 年度にタウンマネジメント機関として、北九州商工会議所が北九州 TMO を発足し、さらに TMO 構想（小倉版）に基づくタウンマネジメント推進事業の実行組織として、地元企業等の出資により北九州まちづくり応援団(株)が設立された。既に具体的な取り組みがスタートするなど、地元関係者や民間事業者が主体となった仕組みづくり等において成果が見られるようになっており、今後もこれまでの成果を生かしたタウンマネジメントの取り組みの更なる推進が見込まれている。

##### 2) 紫川周辺の賑わいづくりの取り組み

北九州市のシンボル空間となっている紫川周辺においては、これまで官民協働で取り組んできた「紫川マイタウンマイリバー整備事業」が進展し、川に顔を向けた美しく魅力的なまちなみが形成されている。この整備された公共空間を活用して、オープンカフェや貸しポート、遊覧船などの四季折々のイベントが民間主体により行われている。また、紫川沿線の多くのまちづくり団体によって、清掃活動や河川体験学習など、美しい河川景観の維持に繋がる取り組みも行われており、かつて川で分断されていた東西地域に一体感が生まれ、川を中心に回遊性と賑わいが高まっている。

このような民間主体の活動・成果は、今後、地域一体で更に賑わいづくりに取り組んでいくうえで重要な活力になるものである。

##### 3) 適切なニーズの把握

小倉都心地区では、消費者・利用者等のニーズの多様化・高度化に対応した戦略的な取り組みを行うため、平成 17 年度から毎年、小倉都心地区への来街者を対象としたアンケート調査を実施し、来街頻度、立寄り箇所など、来街者のニーズ把握を行っている。

各種事業の企画・実施等においては、この調査結果等を踏まえ、ニーズ把握を行いながら、消費者・利用者の意向にマッチした事業の推進を図っており、今後の取り組みにおいても、事業の実施効果の予測やフォローアップなど、有効に活用していくことが可能である。

##### 4) 実証実験の実施等による事業効果の把握

各種事業の実施にあたっては、次のような実証実験等により事業効果の把握も行いながら、より効果的な事業の推進を図っている。

###### ・ 共通駐車券事業

区域内の参加駐車場に駐車して参加店で買い物をすると、購入額に応じて共通駐車券がもらえるシステムを導入する事業で、来街者の利便性の向上、滞在時間の長時間化などを図ることを目的として、平成 19 年 3 月より実験的に事業をスタートさせている。今後は、これまでの事業実施の効果等を踏まえ、システムの充実を検討するなど、より効果的な事業の推進を図ることとしている。

###### ・ 1 駅 100 円モノレール事業

利用者のサービスの向上を図るとともに、都心部等への回遊を増し、公共交通の利用客の増加を図るため、モノレールの隣駅間に 100 円きっぷを導入する事業であり、導入にあたっては、まず小倉 - 旦過間について平成 18 年 11 月から試行実施し、平成 19 年 5 月から全区間を対象として本格実施をスタートさせている。前年度に比べて利用者数は増加しており、今後も P R を行いながら、更に利用促進を図ることとしている。

## [ 2 ] 都市計画との調和等

基本構想、総合計画、都市計画マスタープラン等、中心市街地の活性化を図る上で、上位計画や関連計画における位置づけ等を以下に整理した。

### ( 1 ) 北九州市ルネッサンス構想 ( 昭和 63 年 )

#### 【基本構想】

北九州市ルネッサンス構想・基本構想では、今後の都市経営の基本的な方向として、「均衡に配慮した集中型都市」を目標とすることを示し、小倉を都心、黒崎を副都心と定め、小倉都心を本市発展の核とすることとしている。

#### 都心の方向性

都心機能の強化のため、従来からの商業機能や業務機能の拡充に加え、行政機能の強化や交通結節機能の改善、再開発などによる土地の高度利用を進め、コンベンション機能や情報機能の導入、充実を図る。

#### 【まちづくり推進計画 2010 ( 総合計画 ) ( 平成 18 年 )】

北九州市ルネッサンス構想・基本構想の総合計画である「まちづくり推進計画 2010」では、目指す都市の方向性 ( 取り組むべき柱 ) の一つに「高質な都市空間を持つまち」を掲げ、次のような取り組みを進めることとしている。

#### 今後の進め方・主な取り組み

##### 便利で快適な「まちなか」づくり

市民生活の質の向上や市街地に整備された既存ストックを最大限に有効活用し、まちの賑わいを確保・維持するため、便利で快適な「まちなか」づくりを進める。

##### 都心・副都心の機能の充実

都心については、これまでの取り組みにより、都市基盤の整備が進んだことから、今後はこれらの基盤を活用して一層の賑わいづくりを進める。

このため、既存ストックを活用したイベントの開催や民間活力による新たな都市基盤集積の促進等により、都心部の楽しさ、華やかさを増進し、回遊性を高める。

#### 主な施策

##### 「歩いて暮らせるまちづくりを進める」

- ・まちなか居住に向けた土地利用を進める
- ・良好・良質な居住環境を整備する
- ・既存ストックの利活用を進める
- ・公共施設の複合化や集中立地を進める

##### 「交通の利便性を向上させる」

- ・道路をはじめとする快適な交通環境等を整備する
- ・各交通機関の連携を強化する
- ・交通結節機能を強化する

##### 「都心の賑わいを創る」

- ・既存ストックを利活用する
- ・人の集まる施設の設置を促進する
- ・都心部の楽しさ、華やかさ、回遊性を高める

##### 「副都心を整備する」

- ・居住人口を増加させる
- ・都市機能の向上を図る

(2) 北九州市都市計画マスタープラン（平成15年）

北九州市都市計画マスタープランでは、これまでの市街地拡大型のまちづくりを転換し、郊外の大規模開発の抑制とともに、生活や交通の利便性が高い「街なか」を重視したまちづくりを進めることとしている。今後の都市空間形成の基本方向として、「街なか」の重点化、「拠点地区」における都市機能の強化などを示している。

【都市空間形成の基本方向】

・「街なか」の重点化

北九州市における市民生活や産業・経済の活力の創生・再生に向けて、都市ストックの充実している「街なか」を重点化し、社会基盤、産業基盤、都市基盤などの再生に向けた総合的な取り組みを進めていく。また、生活機能や産業機能の再生・強化を図るとともに、多様な都市機能の調和と融合を図っていく。

・「拠点地区」における都市機能の強化

人、もの、情報の交流の中から新たな都市文化と産業が育まれるような取り組みを進めていく。特に、都心、副都心、地域拠点などにおいて、交流拠点としての機能充実、強化を図っていく。

集中型都市の都市構造（北九州市都市マスタープラン（平成15年））



(3) 環境首都グランドデザイン（平成16年）

「真の豊かさ」にあふれるまちを創り、未来の世代に引き継ぐことを基本理念として、『都市の持続可能性を高める』ことをあらゆる行動の最上位の価値基準に位置付け、環境首都として世界に認められる都市を目指す。

(4) ハートフル北九州政策大綱（平成18年）

重点政策の一つに「美しきコンパクトシティを目指す」ことを位置づけ、歩いて暮らせるまちづくりに関する多様な取り組みを進める

(5) 北九州市集客交流計画【にぎわいづくりプラン】（平成19年）

まちなぎわいを生み出し、ビジターズの消費活動による経済効果、関連産業の雇用機会創出効果など、地域経済全体の活性化を目指す「ビジターズインダストリー」の振興を図る

### [ 3 ] その他の事項

中心市街地の活性化に向けた各種取組みを実施するにあたっては、特に、「世界の環境首都」を目指す本市においては、くらしや仕事を通じての環境負荷が小さい都市構造への転換、資源・エネルギー利用の効率化や再利用、施設の長寿命化など、環境負荷の低減などに配慮した「都市の持続可能性を高める」ことを意識した施策展開を図っていくものとする。

#### 環境首都グランドデザイン（平成16年）

『「真の豊かさ」にあふれるまちを創り、未来の世代に引き継ぐ』を基本理念として、「都市の持続可能性を高める」ことをあらゆる行動の最上位の価値基準に位置づけ、環境首都として世界に認められる都市を目指すこととしている。

#### 北九州市民環境行動10原則

- 1．市民の力で、楽しみながらまちの環境力を高めます
- 2．優れた環境人財を産み出します
- 3．顔の見える地域のつながりを大切にします
- 4．自然と賢くつきあい、守り、育みます
- 5．都市の資産（たから）を守り、使いこなし、美しさを求めます
- 6．都市の環境負荷を減らしていきます
- 7．環境技術を創造し、理解し、産業として広めます
- 8．社会経済活動における資源の循環利用に取り組みます
- 9．環境情報を共有し、発信し、行動します
- 10．環境都市モデルを発信し、世界に環を拡げます